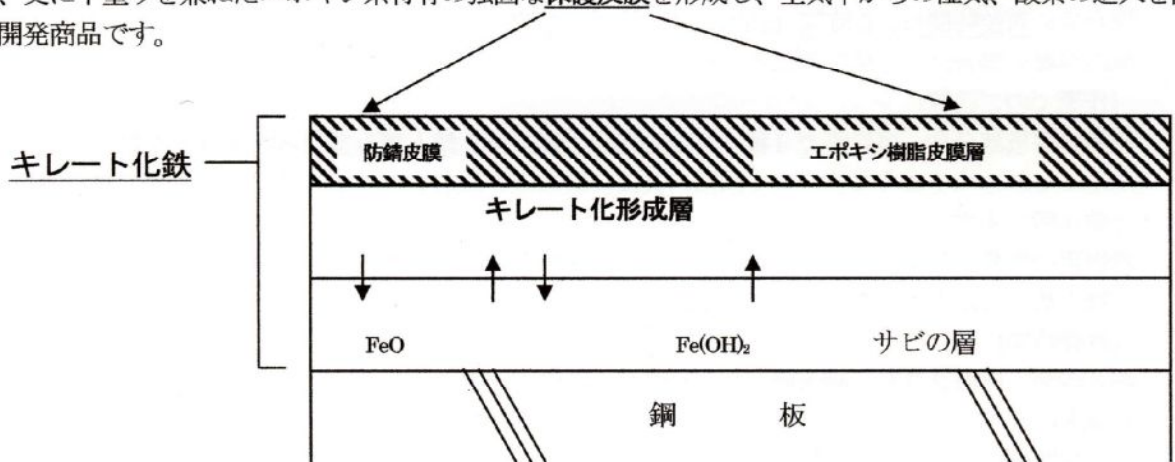


SABISEAL エポ・サビシール#104

サビシールは、エポキシ系プライマーの強密着の下地処理と化学反応による強固な錆止めとが同時に進行する下塗り材です。

サビシールは、錆を利用して、錆に含まれる水酸化鉄・酸化鉄と化学的に反応結合し、安定なキレート鉄を生成、更に下塗りを兼ねたエポキシ系特有の強固な保護皮膜を形成し、空気中からの湿気、酸素の進入を防ぐ新開発商品です。



特 徴

1. 錆（水酸化鉄・酸化鉄）と化学反応して強固で安定な保護皮膜に転化します（キレート化鉄に転化）。
2. 水分と、酸素を遮断して錆と錆の発生する原因をエポキシ特有の強固な膜で封じ込めます。
3. 低い粘度と、強い浸透性により、錆の奥深くにまで容易に浸み込みます。
4. ケレン作業が軽減されます。
浮き錆・汚れの除去程度の前処理から作業も可能となります。
埃の飛散をとまなう電動サンダー等でのケレン作業がなくなる工程も実現可能です。
5. 上塗りには多くの一般塗料がご使用いただけます。（日の当たらない部分は上塗りなしでも可）
タケシールエポ床用・エポキシパテなどでは、エポ・サビシール#104が下塗りとして最適です。
エポキシ系下塗り材では、硬化障害をとまなう、ポリエステル・ビニールエステル系樹脂やポリパテ等
また、速乾性が求められる場合や、冬季の低温時の作業にはサビシール EU タイプをご使用ください。

用 途

- 船舶 : 甲板諸設備・配管類
- 海洋構造物 : 栈橋 橋桁 鋼管杭 橋梁
- 送電施設 : 送電鉄塔 電波塔
- 工場 : 化学プラント
- 一般構造物 : 鉄筋コンクリートの鉄筋腐食の予防・鉄骨屋根裏の鉄骨部位

工程例

エポ・サビシール#104は、2液型エポキシプライマーと同じ様にご使用ください。

工程	使用材料・作業	塗布量kg/m ²	塗装間隔
下地処理	油汚れ・浮き錆撤去後、清掃		
下塗り	エポ・サビシール#104の塗布	0.2	3時間以上 48時間以内
上塗り	エポキシ・ウレタン・ペンキ等の塗布 日の当たらない部分は省略の場合もあります		(上記を過ぎたら目荒し必要)

作業手順

下地処理：作業面の油污れ、浮き錆等は取り除きます。除去可能な錆はサンダー・ワイヤーブラシ等で出来るだけ撤去してください。

十分に乾燥してから、次の作業を始めます。

塗装作業：本商品は、2液混合型です。配合はA液：B液＝1：4（重量比）です。当商品の場合、A液B液の比重がほぼ同じなので、小さなカップでA液を1カップ、B液を4カップとして、小分けが可能です。

また、正確な目盛の付いた容器でも、小分けが可能です。

A液とB液の必要量を混合容器に移して、よく混合したのち塗布します。

錆面に塗装した部分は、錆と化学反応をして黒く変色し、錆以外の箇所は淡黄色のままで硬化します。

混合後の**可使用時間は、6時間（25℃）**ですので、時間内に混合液を使い切ってください。

気温が高い場合は、可使用時間は更に短くなります。

（作業でのご注意）

船舶の甲板部分や、橋梁等で3種ケレンの指示では、浮き錆と積み重なったホコリを撤去して、本商品が下地にしみ込めるような状態まで清掃の後に、錆の深さに応じてエポ・サビシール#104を、たっぷりと塗布願います。

屋根裏の鉄骨部分や、フェンスなど、ホコリの飛散を避けるため、サンディングをしない場合は、浮き錆と積み重なったホコリを撤去して、本商品が下地にしみ込めるような状態まで清掃の作業が必要です。

（乾燥時間）

約3時間 気温25℃ 晴天時 良好な通気の確保が必要です

気温5℃以下では硬化しない場合がありますので、**低温時は必要に応じて加温および送風**が必要です。

（塗装間隔）

上塗り可能時間は乾燥硬化後より48時間以内

48時間を経過した場合は、表面をサンドペーパー等で、目荒らしを行ってから、再度塗装してください。

日の当たらない部分は省略の場合もあります。

性状

状態／種類	A液	B液
外観	淡黄色透明液体	淡黄色濁液体
比重（25℃）	0.95	0.95
不揮発分（%）	41	39
混合比	100	400
可使用時間（25℃）	混合後6時間	
指触乾燥（25℃）	約1時間	

物性 試料作成条件：塗膜厚＝40μ／室温

試験環境：室温25℃

試験項目	結果・判定（◎＝合格）
塗膜硬度（鉛筆硬度）	H
付着性（ゴバン目＝1mm）	100／100
屈曲性（2mmφ×180°）	◎
伸び（mm）	>8.0
耐衝撃性（500g／落下＝cm）	>50

耐薬品性試験・JIS5400-7-8による

薬品名		結果・判定（◎＝合格）
20%硫酸溶液	浸漬時間：24時間	◎
5%苛性ソーダ溶液	浸漬時間：24時間	◎
5%塩水噴霧	噴霧時間：2000時間	◎

塩水噴霧試験装置＝JIS Z 2371

摘要法規・法規名

消防法危険物取締法	危険物第4類第2石油類 危険等級II
労働安全衛生法	有機則第2種有機溶剤